

令和7年度 第2回君津市在宅医療・介護連携推進協議会

日時 令和8年2月25日(水)
午後7時～午後8時30分
会場 君津市役所 6階災害対策室

1 開会

2 挨拶

3 議題

- (1) 医療・介護関係者の研修について 【協議事項】
- (2) 地域住民への普及啓発について 【協議事項】
- (3) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援について 【報告事項】
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援について 【報告事項】
- (5) 認知症初期集中支援チームについて 【報告事項】
- (6) 委員所属団体の取り組み等について 【情報共有】

4 その他

君津市地域包括支援室配布資料について

5 閉会

議題 1

医療・介護関係者の研修について

1 目的

高齢者の在宅療養や在宅介護を支援するために多職種が一堂に会し、連携体制を構築することにより、効果的な医療介護サービスの提供を目指す。

2 これまでの取り組み内容

令和 4 年度
<ul style="list-style-type: none">◆ 医療、介護関係者の情報共有の支援について説明◆ 「バイタルリンク」について帝人ファーマ(株)伊藤氏から説明◆ ICT ツール活用の現状と課題をテーマに多職種で意見交換を行った。
令和 5 年度
<ul style="list-style-type: none">◆ 「バイタルリンク」について帝人ファーマ(株)伊藤氏から説明とデモ体験◆ 「君津圏域多職種連携情報共有システム(バイタルリンク)利用の手引き」について説明◆ ICT ツールを活用することの感想と課題に思うことを多職種で意見交換を行った。
令和 6 年度
<ul style="list-style-type: none">◆ 講演「在宅医療・介護現場における暴力・ハラスメント防止について」 講師 法テラス千葉法律事務所 ・橋ヶ谷 祐可 弁護士・金澤 万理子 弁護士・野口 悠紀音 弁護士◆ グループワーク 事例を用いて対応方法について意見交換を行った。
令和 7 年度
<ul style="list-style-type: none">◆ 講演「ACP(人生会議)について」 講師 コンフォート君津クリニック 院長 中田 真司 医師◆ グループワーク 事例を用いて人生会議のタイミングや多職種連携についての意見交換を行った。

3 今年度の多職種研修会のアンケート結果及びグループワークの意見

[資料 1](#) 参照

4 次年度について (案)

アンケートの結果から、人生会議 (ACP) について開催または参加する機会が少ないことが分かった。

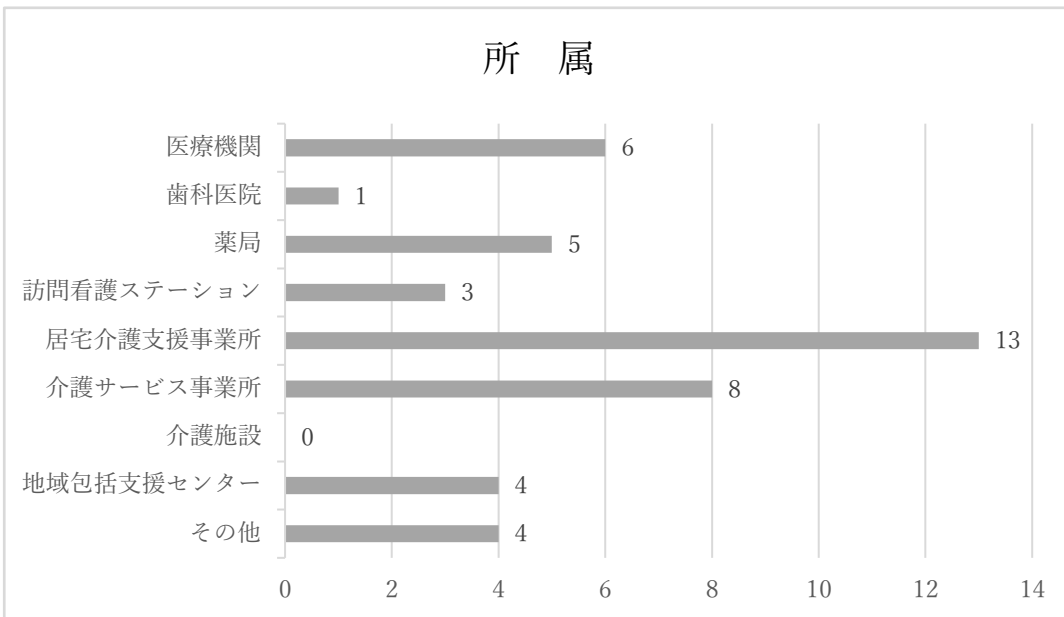
次年度も引き続き、専門職として、ACP を学ぶ機会を作り、多職種で対応について検討や意見交換を行い、顔が見える関係作りや多職種連携を推進したい。

資料 1

君津市在宅医療・介護連携推進多職種研修会

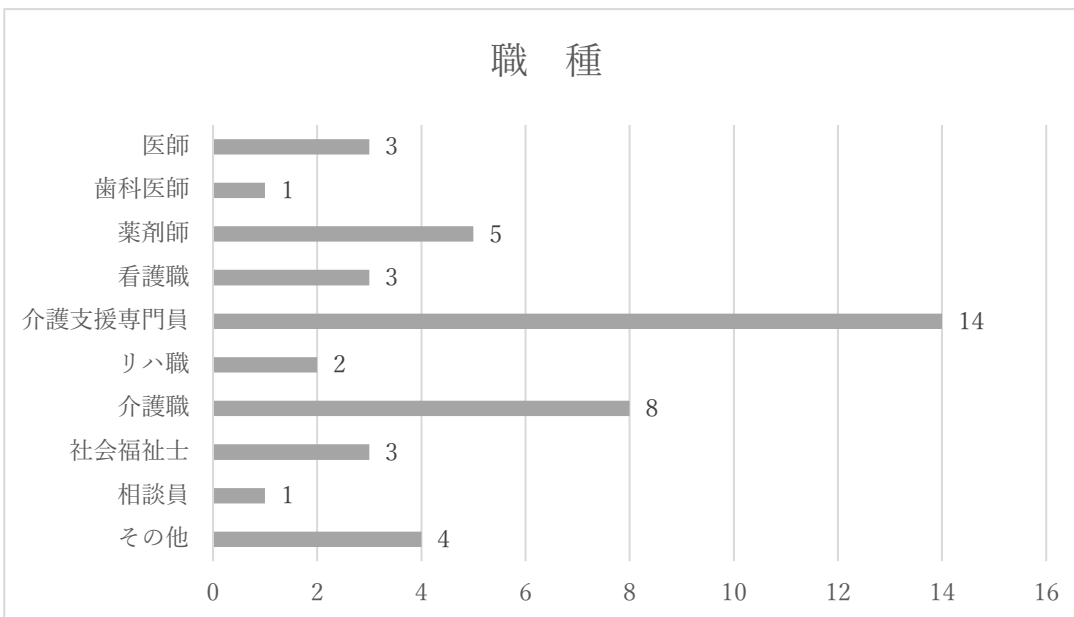
実施日時 令和7年11月11日(火) 18:30~20:15
場所 ふれあい館2階 コミュニティーホール
人数 50人
アンケート回収 44/50 (回収率88%)

1. 参加者の所属



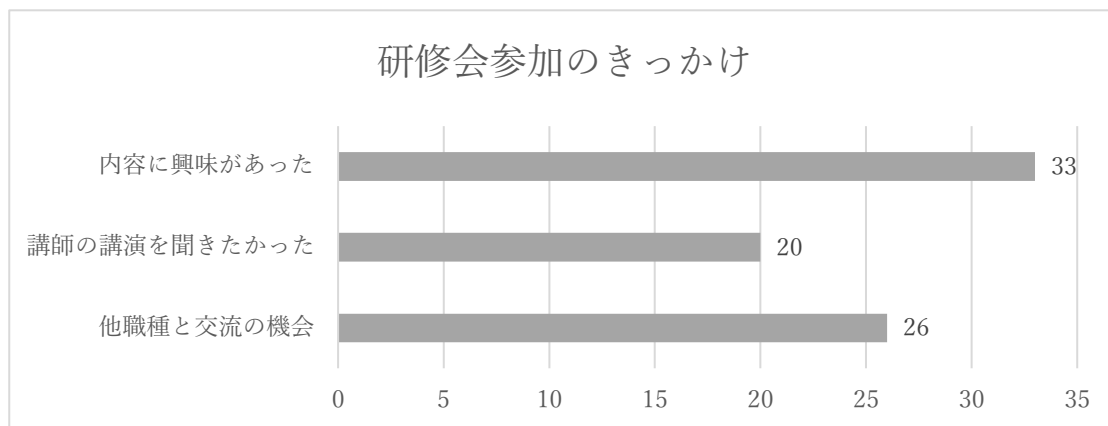
その他は、個人で行っている鍼灸師が2名、福祉用具レンタル事業所が2名だった。

2. 参加者の職種

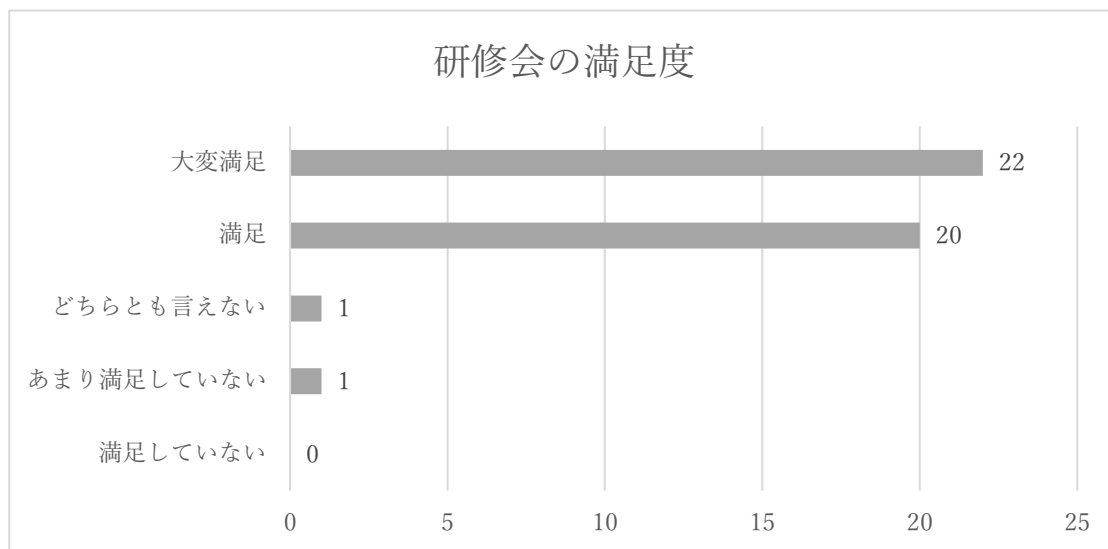


介護支援専門員の参加が最も多かった。
例年に比べ、医師や介護職の参加が多かった。

3. 研修会参加のきっかけ

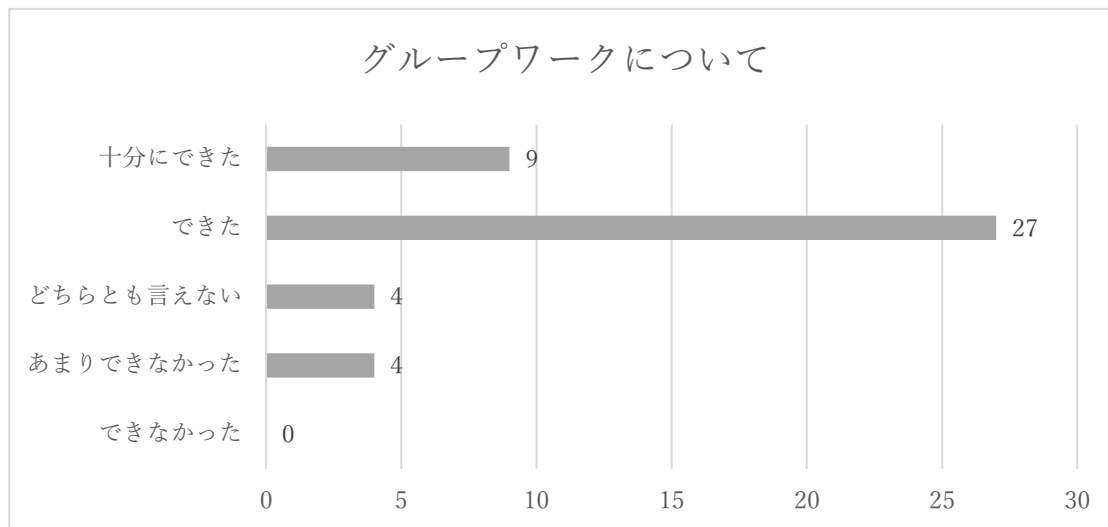


4. 研修会の満足度



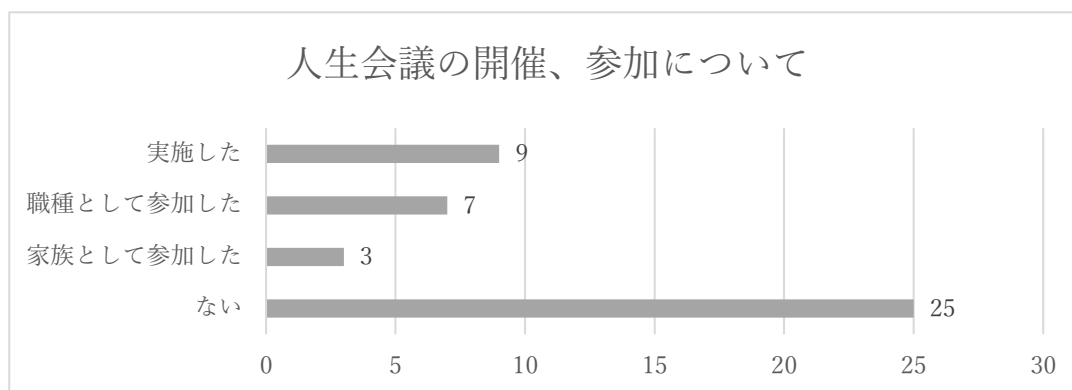
回答者の95%が、大変満足、満足と回答した。

5. グループワークでの話し合いについて



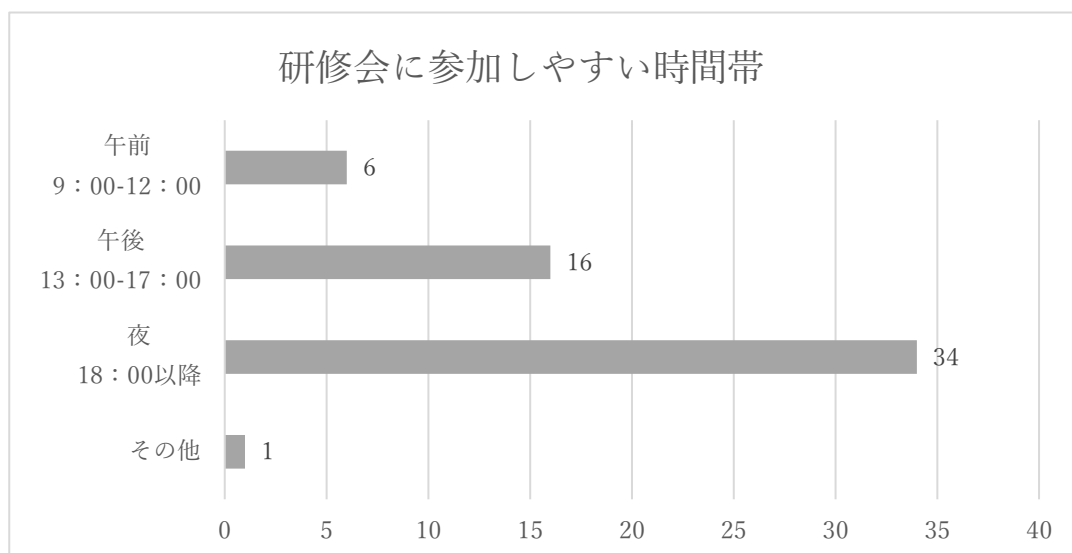
回答者の81%が十分にできた、できたと回答した。

6. 人生会議を実施した、または参加したことがあるか



半数以上が人生会議を実施した、または参加したことがないと回答した。

7. 研修会に参加しやすい時間帯



その他は土日以外と回答。複数回答可とし、18時以降が最も多かった。

8. 研修会のテーマについて

- ICTの利用について
- 看取り、ターミナルについて
- 困難事例、独居高齢者の支援、虐待傾向ケース対応など各専門職の意見を交えた研修
- 高齢社会となり、社会問題に関連したテーマに多職種でのグループワーク
- 元気に過ごすための食生活や口腔ケアについて

9. 研修会全般に関する意見、感想等

- 多職種・他職種との意見交換や交流ができて良かった、勉強になった。
- 人生会議について改めて考える機会になった。

議題 2

地域住民への普及啓発について

1 目的

地域住民が在宅医療と介護連携の理解を深め、自分や家族が健康なときから在宅医療・介護が必要になった場合を考える機会となることを目的とする。

2 これまでの取り組み内容

令和4年度
「人生会議ってなあに～もしもの時に家族が困らないように～」 講師 小櫃診療所管理者兼所長 望月崇紘医師
令和5年度
「介護予防と人生会議」 第1部 「介護予防で健康寿命をのばそう」講師 君津中央病院 理学療法士 川名健太氏 健康寿命を延ばすために、簡単な運動も交えて講演会 第2部 「人生会議ってなあに？～気軽に人生会議をしてみよう～」 ・横浜市制作短編ドラマ放映 「稔（みの）りの世代（高齢期）編～みなとの見える街で～」 ・支援者からの体験談 東部地域包括支援センター 長谷川社会福祉士 ・人生会議チェックシート記入
令和6年度
「人生会議ってなあに？～元気なうちに準備できること～」 ◆ 第1部 「自筆証書遺言書保管制度について」 講師：千葉地方法務局木更津支局 総務課長 秋葉 修氏 ◆ 第2部 「人生会議ってなあに？～気軽に人生会議をしてみよう～」 ・支援者からの体験談 小糸・清和地域包括支援センター 近藤看護師 ・人生会議リーフレット記入
令和7年度
講演「今から備えるあなたと家族のこれから～在宅医療の現場から人生会議を考える～」 講師 コンフォート君津クリニック 院長 中田 真司 医師

3 今年度のアンケート結果

資料2 参照

4 来年度について（案）

来年度も引き続き、希望する最期を迎えるための準備として人生会議をテーマとした講演会を開催する。

内容として、人生会議を行うにあたりかかりつけ医/かかりつけ薬局の役割、必要性にフォーカスとしたものを検討したい。

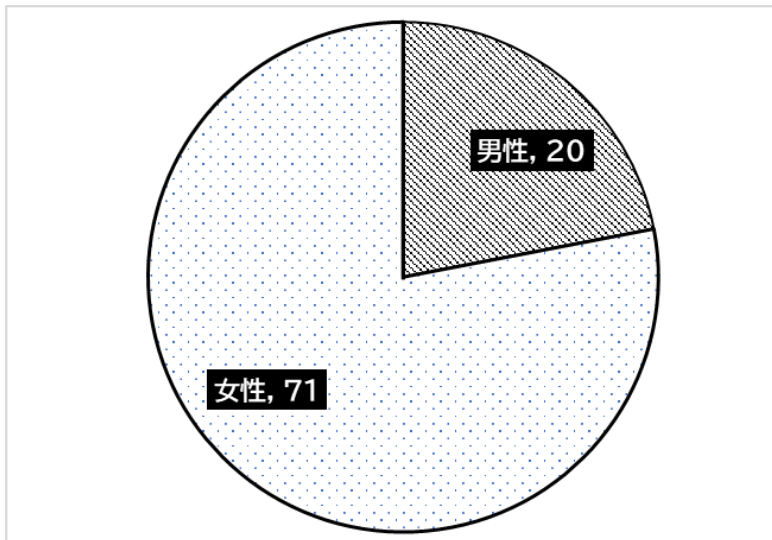
資料 2

君津市在宅医療・介護連携推進事業 市民向け医療講演会

『今から備えるあなたと家族のこれから～在宅医療の現場から人生会議を考える～』

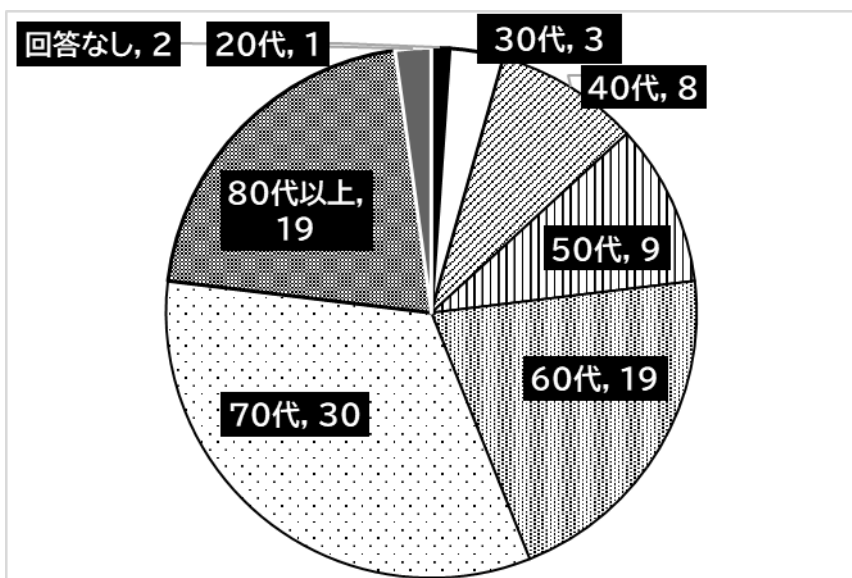
実施日時 令和7年10月28日(火) 13:30～15:00
場所 君津市立中央図書館 視聴覚室
人数 122人
アンケート回収 91/122 (回収率75%)

Q1. 性別を教えてください。



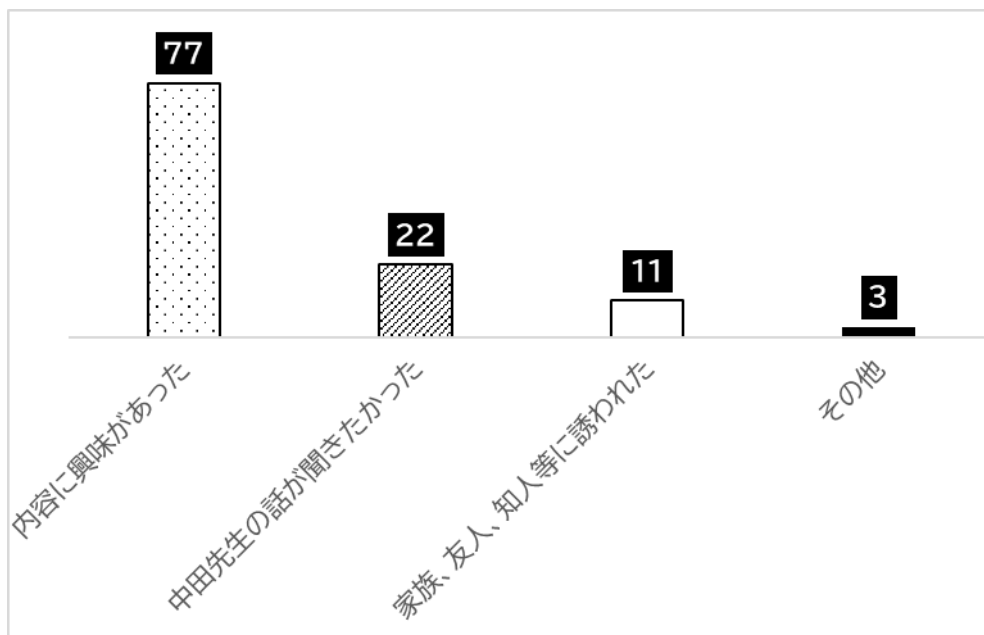
女性の参加者が多く見られた。

Q2. 年齢を教えてください。



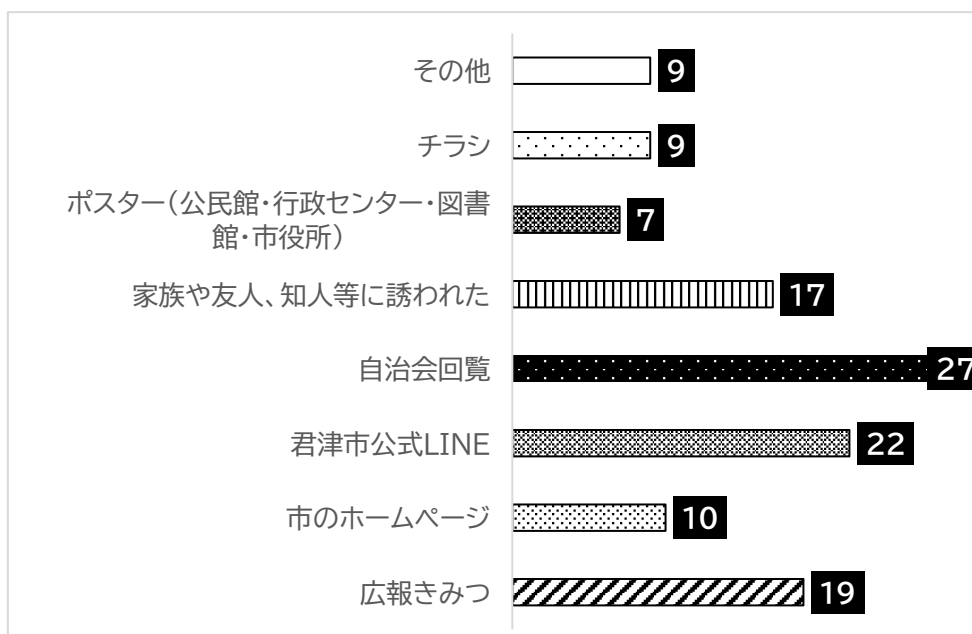
20～40代の参加者もいたが70代が最も多く、次いで60代、80代以上となった。

Q3. 講演会参加の理由を教えてください。(複数選択可)



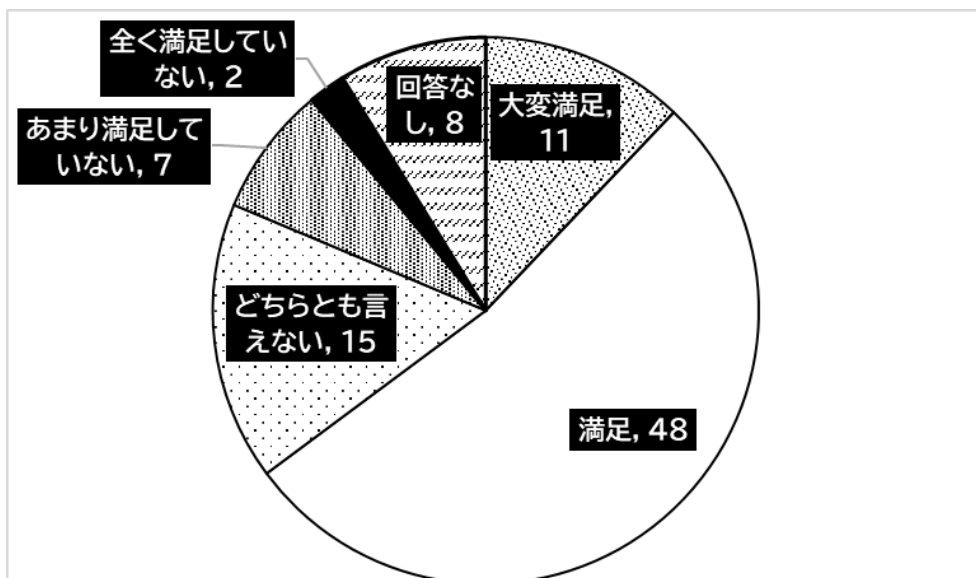
- ・人生会議について興味を持たれていた方が多かった。
- ・医師から話を聞けることに関心を示した方もいたことがわかった。

Q4. 講演会を何でお知りになりましたか？(複数選択可)



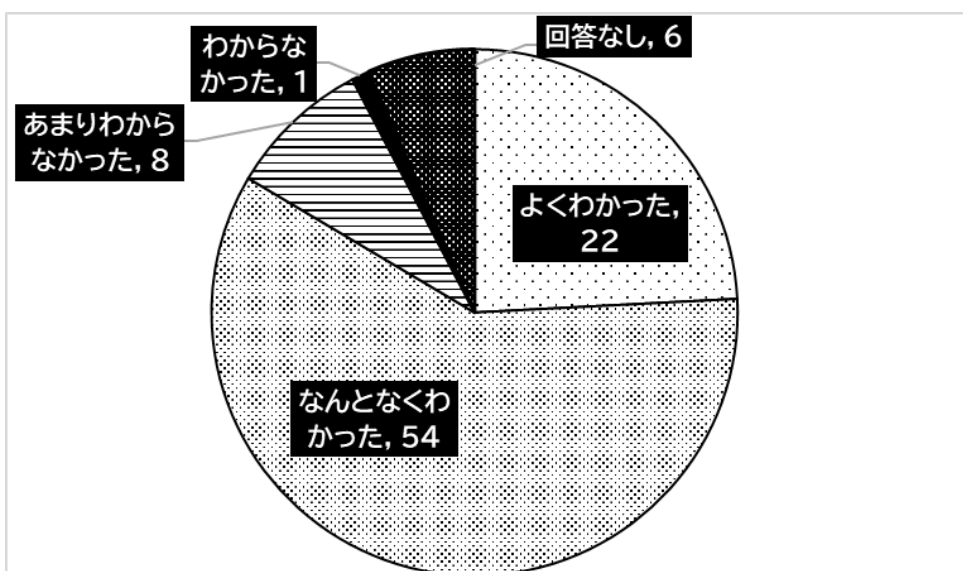
- ・自治会回覧が最多だったが、初の試みだった君津市公式 LINE の効果も見られる結果となった。

Q5. 講演会の満足度をご回答ください。



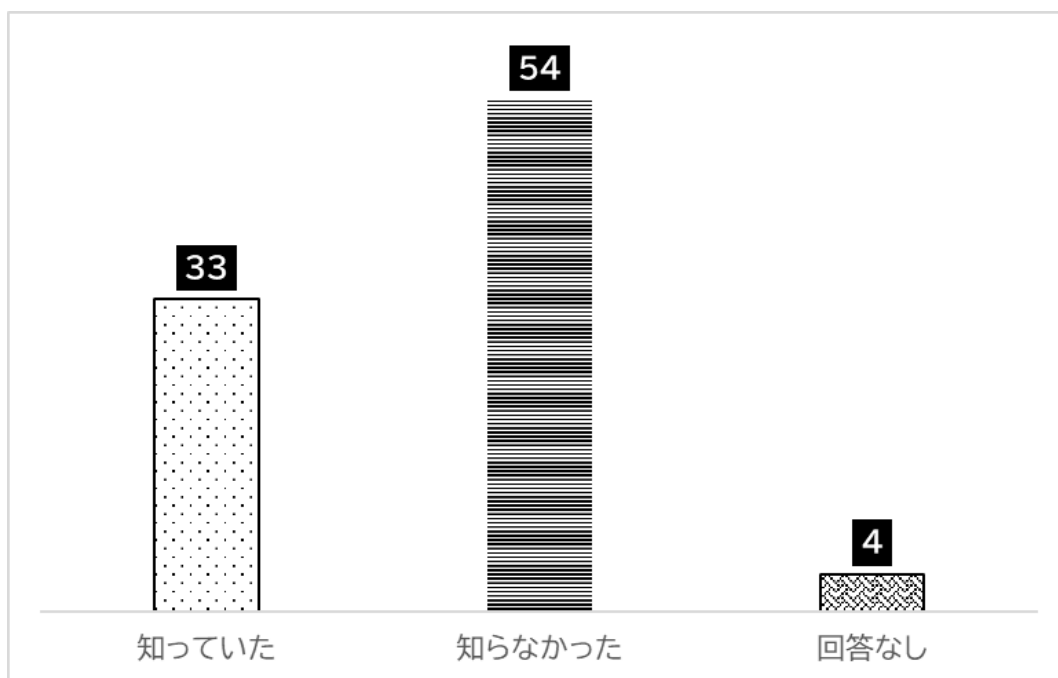
- ・半数以上が満足の結果となった。
- ・あまり満足していない/全く満足していない意見としては、内容が思っていたのと違う（人工呼吸器などの知識が得られると思っていた）、訪問診療、訪問介護、ターミナルケアなどの制度や金銭面など現実的な話を聞きたかった、死生観の話が難しかったと意見があった。

Q6. 講演会の内容について理解できましたか？



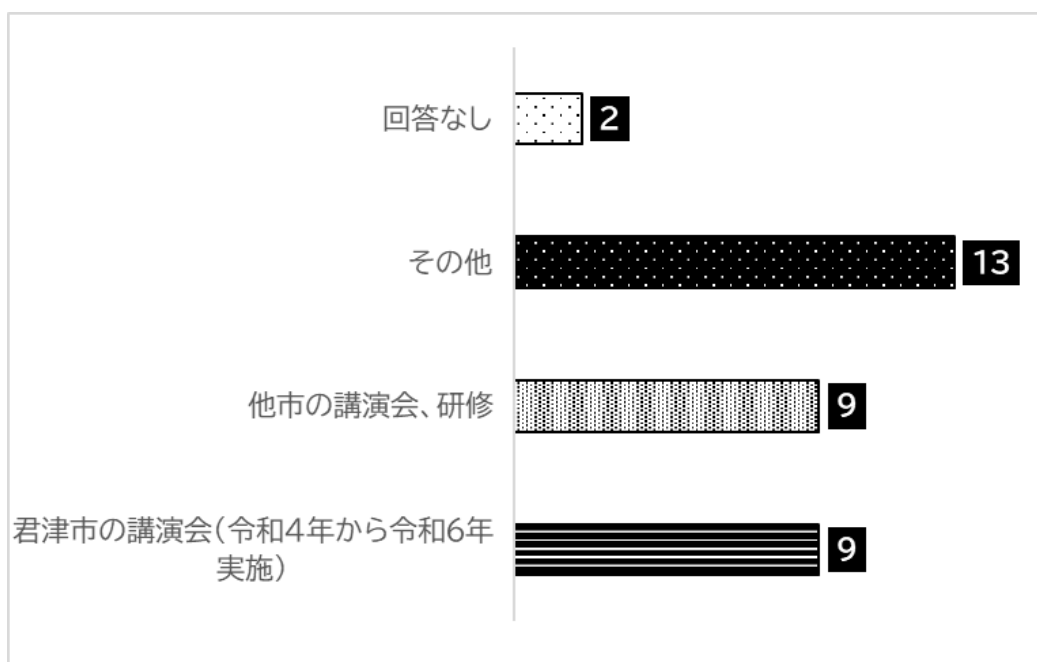
- ・半数以上が理解できたと回答だった。
- ・あまりわからなかった/わからなかった方の意見として、心の構造、無意識についてがわからなかったと意見があった。

Q7. 人生会議を知っていましたか？



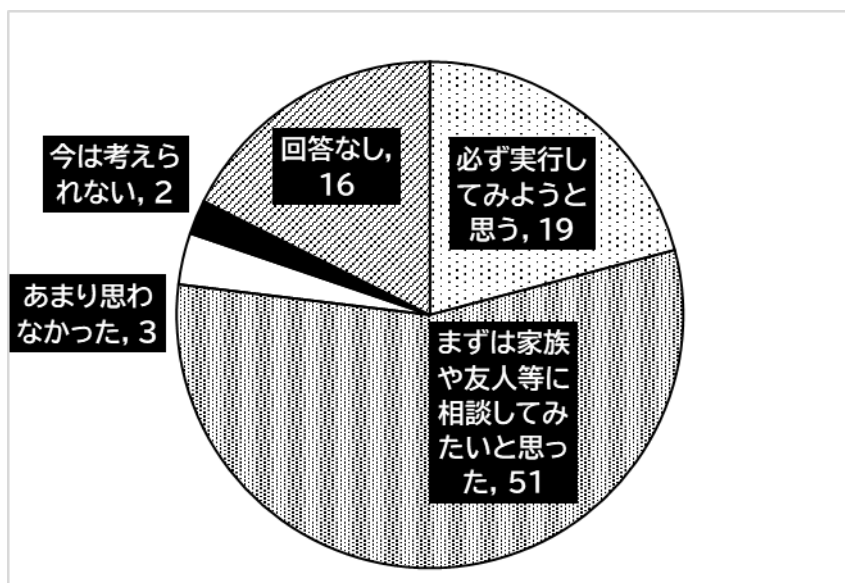
・半数以上が知らなかったという結果だった。

Q8. どこで人生会議を知ったか教えてください。(複数選択可)



- ・知っていた方の半数は君津市や他市の講演会、研修の参加者だった。
- ・その他の内訳の回答なしだったため不明。

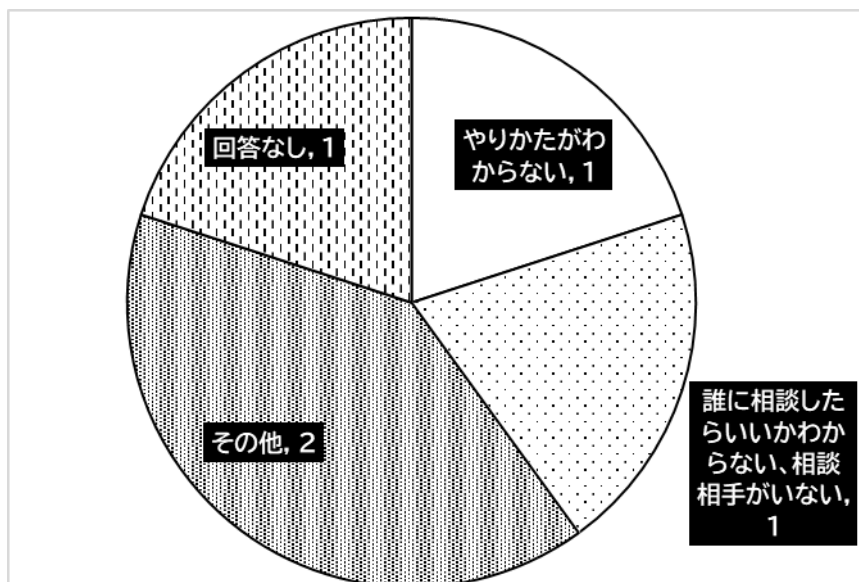
Q9. 人生会議をしてみたいと感じましたか？



・大半がポジティブな回答であり、まずは相談から始めたい方が多かった。

Q10. 人生会議をしてみたいと思わない理由をご回答ください。

(Q9を「あまり思わなかった」、「今は考えられない」と回答した方、複数選択可)



Q11. 講演会についての感想をお聞かせください。 *別紙参照

Q12. 今後、在宅医療・介護連携の講演会のテーマとして取り上げてほしい内容についてご回答ください。 *別紙参照

1 目的

医療介護連携サポート窓口（相談窓口）を設置し、地域の医療・介護関係者から在宅医療・介護連携に関する相談を受け付け、連携調整、情報提供等により支援する。

2 設置場所 市内4か所

地域包括支援室、中部地域包括支援センター、小糸・清和地域包括支援センター
東部地域包括支援センター

3 医師会の支援体制

医療に関する相談について、医師参加型の相談支援体制として、4市8名の地域相談サポート医を指定。月1回、地域相談サポート医が集まり「医療相談検討会議」を開催、医療・介護関係者へ助言や情報提供等を行う。

4 対象者 医療関係者・介護関係者

5 事業開始時期 平成30年11月1日

6 周知方法 周知案内配布（※）
ホームページ掲載
※各地域包括支援センター窓口

7 基本的な相談の流れ

- ① 相談窓口は、医療・介護関係者から医療・介護に関する相談を受け付け、相談シートに入力する
- ② 地域相談サポート医の支援が必要な相談は、地域包括支援室が取りまとめ、地区担当の地域相談サポート医に相談シートを提出する
- ③ 地区担当の地域相談サポート医が相談内容を精査し、初期対応できる内容は対応。地域包括支援室は、相談シートを持ち帰る
- ④ 「難事例」判定を受けた相談を4市8名の地域相談サポート医へ送付。毎月第3木曜日の午後、医師会にて全ての地域相談サポート医による、「医療相談検討会議」を開催し、相談対応を行う
- ⑤ 対応結果は、口頭及び文書で当該相談窓口へ返送する

8 相談件数 (12月末現在)

実件数 76件 延べ件数 257件 (うち地域相談サポート医へ提出 1件)

【内訳】

地域包括支援室	実22件	延75件
中部地域包括支援センター	実18件	延78件
小糸・清和地域包括支援センター	実23件	延31件
東部地域包括支援センター	実13件	延73件

9 相談内容

相談者	件数	介護保険申請状況	相談内容
医療相談員・看護師・ 医師・ケアマネージャ ー・社会福祉士	76件	未申請・申請中 49件 認定あり 25件 不明 2件	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの調整 39件 ・退院後の環境整備 24件 ・受診に関する対応 4件 ・情報提供 4件 ・受診を拒否する人の対応 1件 ・病識薄い本人、家族の対応 1件 ・その他 3件

10 地域相談サポート医へ提出した事例

1 目的

患者・利用者の在宅療養生活を支えるために、患者・利用者の状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が行われるよう、情報共有の手順等を含めた情報共有ツールを整備する。

2 内容

○君津圏域医療・介護多職種連携エチケット集

令和2年度より四市共通の連絡連携シート「君津圏域医療・介護多職種連携エチケット集」を「君津市医療情報一覧」と合わせて市内の居宅介護支援事業所に配布し運用を開始する。

令和4年度に四市で内容を見直し、看取りに関する項目とICTの活用に関する項目を追記した。

○君津圏域多職種連携情報共有システム（バイタルリンク）利用の手引き

令和3年度から君津木更津医師会が中心となり、千葉県補助を受けて情報共有システムであるバイタルリンク（帝人ファーマ株式会社）が導入されている。

医療・介護関係者間でバイタルリンクの使用が広まるように、令和4年度に四市で新規に手引きを作成した。

3 令和7年度の実施内容

令和7年10月より委託先の包括支援センターでも、バイタルリンクの管理者として運用を開始した。また、コンフォート君津クリニックにおいても管理者として運用を開始予定。その他、多職種研修会においてもバイタルリンクの活用について案内を配布し周知に努めた。

4 令和8年度の予定

「君津圏域医療・介護多職種連携エチケット集」及び、「君津圏域多職種連携情報共有システム（バイタルリンク）利用の手引き」を市のホームページ等で周知に努め、活用方法について四市での協議を継続する。

1 目的

認知症になっても本人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援体制をつくる。

2 実施方法

地域包括支援センターに寄せられた、認知症に関する相談の中から、家族の訴えなどにより、認知症が疑われる人などを複数の専門職が訪問し、本人と家族が安心して生活できるように、おおむね6か月間、集中した支援を行う。

3 チーム員構成

専門医	玄々堂君津病院 永嶋嘉嗣医師（認知症サポート医）
専門職	君津市地域包括支援室 保健師2名、社会福祉士1名、主任介護支援専門員2名

4 活動状況

平成29年1月から活動開始

【令和4年度】

チーム員会議 10回

【令和5年度】委嘱状交付

チーム員会議 3回

【令和6年度】

チーム員会議 7回

【令和7年度】委嘱状交付

チーム員会議 4/22、7/22、8/19、12/9

5 認知症初期集中支援チームの対象者

- ・認知症が疑われるか、診断されていても、介護サービスにつながっておらず、家族等が対応に困っている事例
- ・日常生活に支障をきたすなどで認知症が疑われるが、受診を頑なに拒否している事例
- ・初期とは、認知症の進行度として早い段階という意味合いだけでなく、認知症の人への関わりの初期と言う意味も持ち、認知症がある程度進行している人であっても医療や介護サービスを受けていない人も含まれる。

6 事例（資料3活動実績をご参照ください）

- ・支援終了後、モニタリングをした事例

- ・支援を継続している事例

7 効果

- ・医師を含めて検討を行うことにより、医学的な意見を聞くことができる。
- ・チームでの関わりにより、多職種の見点でアプローチの方法を見出すことができる。

8 現状

他者の関わりを拒否しているケースが多く、関係性を築くところから始めるケースが多い。チームとして関わっても必ずしも解決につながるとは限らず、ご本人の状況の変化（入院する等）がなければサービス等の導入につながらないことがある。

9 課題

- ・家族は困っているが、本人に病識がないことから、支援を拒否する場合がある。
- ・家族が本人の認知症を受け入れられず、協力が得られないことがある。
- ・初期の認知症の場合、本人も家族も自覚していないからか、なかなか相談ケースとして上がってこず、症状が重症化して初めて相談ケースとして上がってくる。
- ・対象になりそうなケースが見つかって、家族がいない方が多く、本人の同意が取れずに初期集中支援チームの対象ケースとしてあげられない場合がある。
- ・認知症の方の相談は増加しているが、タイムリーな支援が求められ、総合相談にて対応し、初期集中支援チームの対象にならない。

委員所属団体の取り組み（お名前

）※会議終了後、事務局へ提出してください。

議題 6

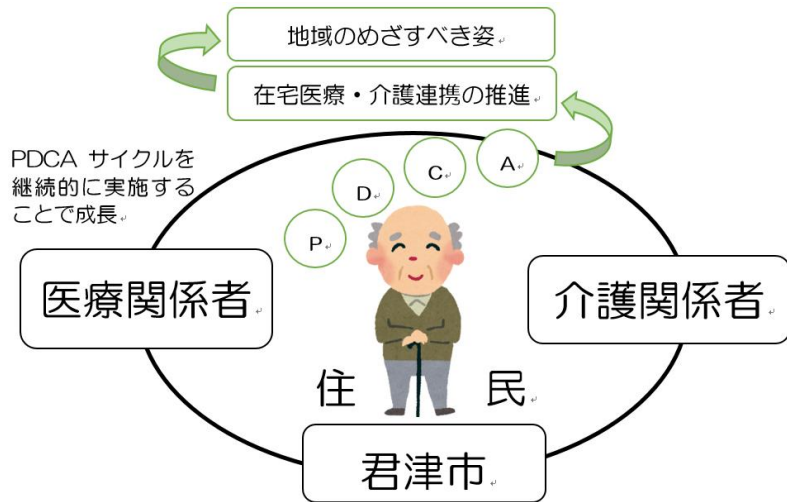
来年度の在宅医療介護連携推進事業を検討していくために現場の声を聞かせてください。

□各所属団体に令和7年度取り組みや令和8年度計画されていること

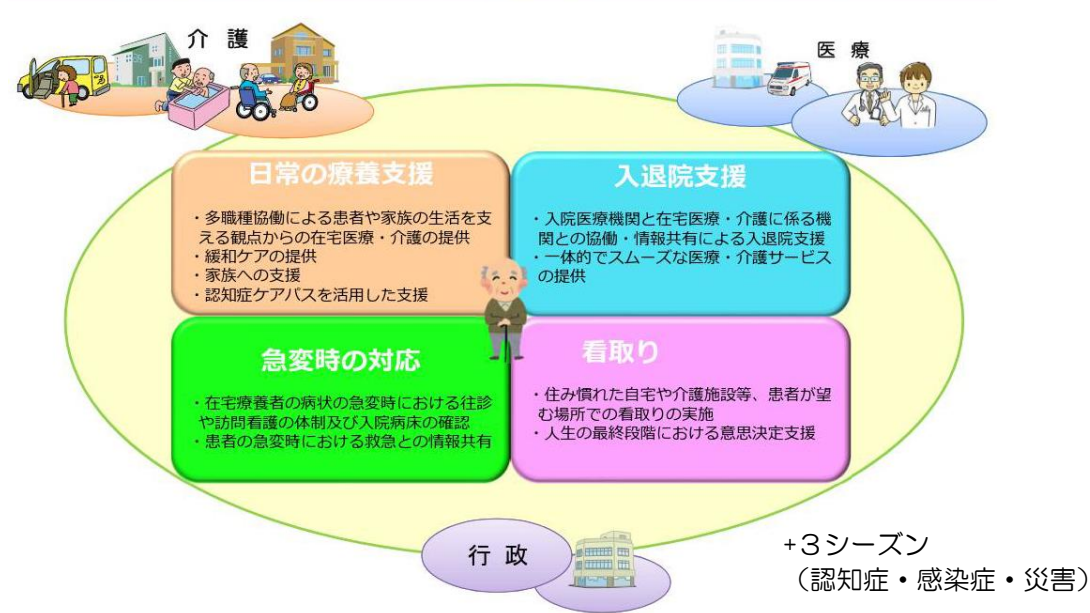
□日々の市民への関りを通し、在宅医療・介護連携推進に向け君津市の「強みや弱み」「こうなるといいな」と感じられていること

内容に対し該当する項目に○をつけてください→		日常の療養支援	入退院支援	急変時の対応	看取り
R7取り組み					
R8計画					
強み					
弱み					
こうなるといいな					

【地域の目指す理想像】
切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築
～看取りや認知症への対応を強化～



在宅医療と介護連携イメージ（在宅医療の4場面別に見た連携の推進）



君津市地域包括支援室配布資料について

1 マイエンディングノート ～私の意思表示～



<http://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/41965.pdf>



2 もしものときのための「人生会議」



A3 両面印刷、1/2 カット

<http://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/46208.pdf>



A4 判

<http://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/46553.pdf>



3 君津市認知症ガイドブック



<https://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/46777.pdf>

